

シヤングリ・ラ

加速する地球温暖化の進行のなか、日本の気候は熱帯へと変わりスコールが地面を洗い流す。空気中の二酸化炭素を減らすために地上は森林化していく。その範囲は郊外に留まらず都心にまで及んだ。その結果、東京の中心に巨大なコロニーを建設し、都市機能をすべてそこに移動させることが決められた。この超高層建造物「アトラス」は、1層が650万平方メートルの広さを持ち、高さは雲を見下ろすほどである。一方で、入居には高額なお金を支払うか、高倍率の抽選に当たらなければならない。行く当てがなくなって難民になった人たちとともに、反政府ゲリラの総統、北条國子が立ち上がった。

こんな世界をあなたはと思うだろうか。今日本が抱えている問題、例えば地球温暖化、格差社会、自然災害、都市の一極集中、難民問題。そのすべてを悪化

させたらこんな時代が訪れるのかもしれないと思わせるような設定だ。それだけではない。作中で産業製品には二酸化炭素の排出量と吸収量の比を加味した「炭素税」が課され、空中炭素固定技術により作られたグラファイトを高値で取引している。純金や土地にお金をかけるのは狂っていると笑い飛ばす彼らは、フィクションのはずなのに時代の変化というものを感じさせる。

タイトルの「シヤングリ・ラ」という言葉は、ある小説に登場する理想郷（ユートピア）の名称であり、理想郷そのものも指すらしい。表紙に描かれているバベルの塔もまた、言い伝えではあるが彼らの理想郷のようなものだったろう。翻ってこの空中都市「アトラス」はどうだろうか。誰かの不幸や不利益を下敷きにした幸せや富で成り立つ世界は理想郷とは言えない。人類が求める理想とは何か、考えさせてくれる1冊である。



シヤングリ・ラ (上・下)

池上 永一 著
各880円 (税抜)
角川文庫



はみだし
すてーじ

すごーい！ 読んでなくても学生でなくても京大にいらなくても投稿できる！

⇒すごーい！ 読んでないのに学生でもないのに京大にすらいないのに投稿してくれる人がいる！

(他 香深)

(この返事届いていますか……？；編)